

東京藝術大学 国際交流会館



閉館のご挨拶

近隣地域の方々へのメッセージ

ご挨拶



東京藝術大学国際交流会館長
岡本 美津子

東京藝術大学国際交流会館(松戸寮)は留学生宿舎として平成8年(1996年)に設置され、開館からこれまで約800名の留学生や外国人研究員を受け入れて参りました。しかしながら、施設の老朽化等のため、誠に残念ではございますが、令和4年(2022年)3月末をもって閉館させていただく運びとなりました。

地域の皆様には日本での生活にまだ慣れない入居者たちを温かく受入れ見守っていただき、また、地域におけるイベントへの参加や作品出展にお声がけいただくなど、芸術や文化を通して交流を深める素晴らしい機会を幾度となくくださったこと、大変ありがたく心より感謝しております。

本学主催の交流会には、毎年たくさんの方々をご参加くださいました。日本文化を体験できるような出し物をしてくださったり、留学生たちの出身国や研究の専門分野などに興味を持って話しかけてくださったりといったことは、彼らにとって、とても貴重な経験であり、よい思い出となったに違いありません。

本来であれば、皆様に直接ご報告とお礼を申し上げるべきところ、新型コロナウイルス感染症の拡大がなかなか落ち着かない状況下ではそれも難しいため、大変恐縮ではございますが書面上でのご挨拶となりました。何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

これまで会館に住んでいた留学生たちからも、お世話になった方々へ向けて感謝の気持ちを込めたメッセージがございますので、ぜひご高覧ください。

最後に、皆様からこれまで賜りました会館入居者への温かいご支援やご厚情に対し、重ねてお礼申し上げます。

今後の地域の皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

ご挨拶

東京藝術大学国際交流会館主事

石田 恵里子



このたび、長年に渡り地域の皆さまに支えていただきました東京藝術大学国際交流会館が閉寮の運びとなりました。お世話になりました自治体の皆さまや国際交流団体の皆さま、および地域の方々へ直接ご報告とお礼を申し上げるべきところ、残念ながらそのような機会を設けることが難しい状況下、本紙面にてごあいさつを申し上げます。

芸大生たちは自身の芸術の技を磨くために地道な鍛錬を続ける生活を送っており、ときに孤独を感じることもあると思いますが、そのような中であって地域の皆さまとの交流は留学生たちにとって非常にありがたいものでした。特に交換留学生たちの短い滞在期間においては日本での思い出の多くがこの地域での暮らしであったらと思います。一方、長期滞在の留学生たちの中には、寮を出てからも地域を離れずに皆さまとの親交を温め続けた学生も多かったようです。私は留学生の演奏会や展覧会で、地域の方々が多数応援団として足を運んでくださっているのを目の当たりにし、個々の学生と親密な関係を築き力強くサポートしてくださっていることに感銘を受けたことがたびたびありました。私自身も、毎年行われた交流会で皆さまの留学生支援への熱意に触れ、感激いたしました。

また、地域のお祭りや講習会・交流会などのイベントに迎え入れてくださり、彼らの専門分野や母国の文化を紹介する機会を与えていただいたことも、学生からたびたび聞きました。家族と共に来日した学生は、育児を通じた交流やサポートも得ていたようです。このような個々の学生のエピソードはどれも学生たちと接する中で漏れ聞いたことですので、私が知り得なかった場面でも、皆さまが多くの学生に手を差し伸べてくださっていたことは想像に難くありません。

何分若者たち故、時にご迷惑をおかけすることもあったと思いますが、温かく見守っていただきました。来ては去って行った歴代の多くの留学生たちに成り代わりまして、心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

冒頭に申し上げましたとおり、最後の交流会を開催し、皆さまに直接お礼を申し上げることができないことは非常に遺憾ですが、どうか非礼をお赦しください。

留学生たちの思い出が詰まった会館がなくなるのは寂しい限りですが、今後も引き続きお近くにいる留学生にぜひ地域の皆さまとの交流の機会を与えていただけましたら幸いです。

結びにあたり、皆さまのご健康とご多幸、また地域の益々のご発展をお祈りいたします。

ご挨拶



東京藝術大学国際交流会館管理人
中島 信男

私は国際交流会館の管理人、中島信男です。

私が会館の勤務を始めたのが2010年の4月よりの勤務でしたが、まず学生寮への受入の手伝いから始まる外国人専用の留学生寮で、新松戸地区の地域交流、特に新松戸7丁目、五番街、西パークさんなどの文化祭、美術まつり、餅つき、交流会などの行事に参加や、作品の出品など、いろいろな事に携わってきました。

又、松戸市美術展や外国人の日本語スピーチコンテスト、これは松戸市国際交流協会主催、又、この寮の中には、千葉大の寮生もおりまして、園芸学部のパーティーなどにも参加しています。私もこの十二年間の間に色々な人との出会い、寮生の多くの国々の留学生との出会いが私は楽しく思い出されてなりません。又、この施設が果たした役割りなどが大切な会館だったと思います。

元入居者からのメッセージ



コリーン シュムコー

東京藝術大学では、音楽学、楽理科(現代三味線)を専攻していました。現在は東京藝術大学に専門研究員として所属し、立教大学、ICU、学芸大学の講師でもあり、また三味線の演奏者および作曲家としても活動しています。

東京芸術大学の国際交流会館というと、一番思い出すのは、管理人の中島さんです。つまり、国際交流会館の心 = 中島さんです。中島さんは日本と芸大の外国人と繋がれているキーだからです。

2009年に初めて国際交流会館で中島さんに会ってから、月に一回ぐらい会いに行きます。初めて日本で、一人で住んだ時、分からないことがいっぱいありました。国際交流会館には、ほとんど初めての外国人だけが住んでいるため、質問に答える人、日本の文化を説明できる人、場所を紹介できる人は、周りにほとんどいませんでした。しかし、中島さんはいました。外国人の皆を何回も助けてくれました。さらに、夜になると、外国人の皆さんは一緒に料理を作ることが多かったです。色々な国の食事を食べるようになってとても特別な交流をしました。その時も、中島さんもいつも参加してくれました。美味しい日本の料理も作ってくれて、色々面白くて大切な話を聞かせてくれました。そのため、国際交流会館で中島さんにアメリカの家族、彼氏(現在私の旦那さん)、初めての子も紹介できました。そのぐらい国際交流会館は昔に泊まった場所ではなく、私の日本にある一つのアイデンティティとなり、心から感謝している場所です。

現入居者からのメッセージ



濱尾 早紀

こんにちは。わたしは東京藝術大学で、オーディオアートの研究と制作を行っています濱尾早紀と申します。

わたしは日本人なのですが、会館の入居者である留学生の皆さんと管理人の中島さん、大学機関との間の橋渡しや、留学生たちの日本での生活のサポートをするべく、チューターとしてこの国際交流会館で過ごしてきました。

現在はコロナ禍の影響で、直接お会いすることはできなくなってしまいましたが、いつも、海を越えてやってくる様々な専門性を持った学生たちに、多大な感興と敬意、そして温かさを持って、接し、見守っていただき、誠にありがとうございました。

本来であれば、彼らが今後もそれぞれの個性や技術を活かして、皆様と新たな機会や関係を作り出すことができれば良いのですが、このご時勢のために、2年前までのように交流会などそのためのきっかけを作ることもできず、チューターとしても大変歯痒い思いです。

東京芸術大学国際交流会館は、2022年3月末を持って閉寮してしましますが、東京芸術大学への留学生は今後も来日してくるでしょう。

この度寮を離れていく学生たちや、これからも訪れるであろう学生たちへ、今後とも温かな歓迎をいただければ幸いです。

そして願わくは、ご近所にお住まいの皆様と留学生たちが、気兼ねなく互いに交流し合える日が再び来ることを、心より切願しています。

お別れも閉寮も、大変寂しいですが、この会館で、留学生たちと、関係者の皆様と、この松戸・流山の方々と静かな環境の中で過ごすことができた時間を胸に、わたし自身もまた、自分自身の未来を切り開いていこうと思います。

20年ほどにも及ぶ長い間、東京芸術大学国際交流会館とともに過ごしていただき、誠にありがとうございました。



キム ドヨン

私は工芸専攻 ガラス造形研究室の修士1年 キムドヨンです。
そして国際交流会館の最後のチューターです。

留学のため韓国からドキドキする気持ちを抱えて2020年10月
渡日し、国際交流会館に入居しました。しかしコロナ禍で近所
の方々との交流はもちろん館内の留学生との交流も極めて少な
かったです。その中私は日々の風景を味わうことの楽しさを少し

ずつ分かるようになりました。特に国際交流会館の不思議な風景を、

* 国際交流会館の庭にある下水道 *

国際交流会館の下水道は普通の下水道では
ありませんでした。

優しく、強い生命力のある特別さがありました。



* 国際交流会館の駐輪場 *

ほとんど使用しない場所である駐輪場はクモ
が密かに住んでました。

普段は見えなかったクモの巣が雨の日はキラ
キラ見えてきます。

* 国際交流会館の玄関 *

激しかった前日の天気を感じられるある
入居者の傘です。

無事に寮に帰ってきたようです。入居者
の痕跡を見つけて笑うことも時々ありました。



私が見つけたいくつかの不思議な風景でした。国際交流会館ならではの独特さを感じれて
もうこの風景が懐かしくなります。

閉館されるのは少し寂しいですけどもバイバイの挨拶も入居当時のドキドキする気持ちの
ように渡したいです。

さよなら！

Arturo



Dear Neighbors of the International House

My name is Arturo and I am an engineer from Paraguay, South America, who came to Japan to follow my postgraduate studies at Geidai, researching recording techniques and sound.

There are no words to express all the good times I spent in the dorm and the neighborhood. Just a little walk near Akashia park or near the Sakagawa river after a hard day of studying gave me the energy back to finish my day in a happy way. So beautiful view, all the people exercising or walking their dogs, children playing, it is a truly lovely experience. I'll miss this neighborhood, its people, and everything that made it so beautiful.

Even if we couldn't meet I felt the warmness of this place just living here and I hope it will continue like this for a long time!!

Thanks for all the kindness!

国際交流会館のご近所の皆さんへ

私の名前は Arutro です。南アメリカ・パラグアイのエンジニアで、藝大の大学院で録音技術と音響の研究をするために日本に来ました。

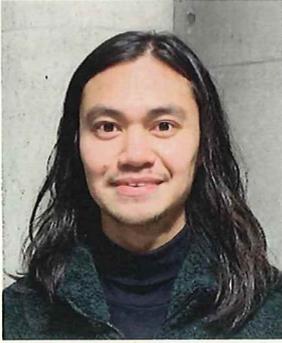
寮や近所で過ごしたすべての楽しい時間は、言葉では言い表せないほどです。研究が大変だった日のあかしあ公園や坂川へのちょっとした散歩は、私に1日を幸せに締めくくる活力をくれました。とても美しい景色、運動や犬と一緒にウォーキングする人々、遊ぶ子供たち、本当に素敵な体験でした。このような素敵な光景を創りあげる人々やご近所の皆さんのことが恋しくなるでしょう。

会うことができずとも、ここに住んでいるだけで温かさを感じることができました。この温かさがずっと続くことを願っています！！

たくさんの優しさをありがとうございます！

(訳: 東京藝術大学国際企画課)

Dan



It took me two weeks before I figured out my ways around Shin-Matsudo. I remember coming home at night, after class, and always taking the wrong turn from the station – either a block too early or late. I have always relied on my digital map to avoid that mistake, so I missed out “seeing” the neighborhood for real.

After 10 months, I can now say that I have aimlessly walked around the area and was able to appreciate its peculiarity of being friendly yet aloof. I have shared some glances, few smiles, and hesitant 挨拶 with neighbors both human and non-humans. I may not be able to really meet and get to know anyone, but I am sure that I felt warm, safe and at home in this place. With that, I am thankful!

Looking forward in visiting Shin-Matsudo again and walking along my favorite riversides but hopefully with more than just plain smiles and glances but laughter and probably real 会話 with the residents.

Thank you so much and またね!

新松戸の周辺を把握するには2週間かかりました。授業後、夜に帰る時には駅からの道で、曲がるのが早すぎたり、遅すぎたり、いつも曲がる場所を間違えていたことを覚えています。道を間違えないようにいつも地図を頼りにしていたので、ご近所の皆さんを直接『見る』ことができずにいました。

10ヶ月が経ち、ぶらぶらと周辺を歩き回ることができるようになり、親しみの中にもよそよそしさが混在する、そんな独特の雰囲気を楽しむことができました。近所の皆さんや動物たちと視線やほほえみ、はにかみながらの挨拶を交わしました。

直接会って知り合うこともできないかもしれませんが、この場所で温かさや、安心を感じ、くつろぐことができたことは確かです。ありがとうございました！

また新松戸を訪れ、大好きな川沿いを歩きながら、ほほえみや視線だけでなく、住民の方と笑い合い、本当の会話をできることを楽しみにしています。

本当にありがとうございます、そして、またね！

(訳:東京藝術大学国際企画課)



Johan-Eerik Kõlar

Dear neighbors of the Tokyo Geidai International House!

I'm Johan-Eerik Kõlar, a pianist from Estonia studying in Tokyo Geidai. I've been living in the International House since the end of March 2021.

Before arriving at Minami-Nagareyama station for the first time with all of my luggage, I had no idea what to expect. As I was walking towards the dormitory for the first time, my spirits rose. The neighborhood immediately charmed me - the quiet streets, children playing in those streets, the beautiful houses, the small parks (I can see Akashia park right from my room window). I fell in love and couldn't believe my luck - that by happy chance, I had made the decision to move here. I've always hoped to live in a tranquil suburban area like this.

Dear neighbors, even though I didn't get a chance to personally get acquainted with you, it was always nice to see you in the streets, I had only pleasant encounters. Your vital activities outside raised my spirits and calmed my heart. It was refreshing to see that even during a pandemic, when many people are spending most of their time inside feeling grumpy, a lot of young Japanese families were happily spending time outdoors, playing tennis in the streets or enjoying the nice weather in one of the lovely parks.

Thank you to the amazing Mr. Nakajima, our dorm manager; to Chui Chuisan (even if that's not her actual name), the tireless helper who keeps the building sparkly clean; to our always helpful dorm tutors Saki and Dohyeon; and to my lovely friends Dan, Aliwen, Arturo, Sareena, Kristyna and Angus - you were all amazing. Much love, wherever your future paths take you!

And thank you, dear neighbors, for making this neighborhood the lovely space it is.

東京藝大国際交流会館のご近所の皆さんへ！

私の名前は Johan-Eerik Kõlar です。エストニアから来たピアニストで東京藝大で学んでいます。国際交流会館には 2021 年の 3 月末から住んでいます。

荷物を全て持って初めて南流山駅に着く前までは、何の想像もしていませんでした。初めて寮に向かって歩いているとき、気持ちが高ぶりました。静かな通り、その通りで遊ぶ子供たち、

美しい家々、小さな公園(私の部屋の窓から右にはあかしや公園が見えます)、近所の光景はすぐに私を魅了しました。私は一目見て気に入り、幸せな縁だと、自分の運の良さを信じられませんでした。このようなのどかな郊外の地域に住んでみたいとずっと思っていたのです。

ご近所の皆様、個人的にお知り合いになる機会はありませんでしたが、道でお会いした時はいつも楽しい出会いばかりでした。外での皆さんの活気ある活動が、私の気持ちを高め、心を穏やかにしてくれました。パンデミックの最中、人々が家の中で憂鬱に過ごしているときでも多くの若い家族が幸せな時間を外で過ごし、道でテニスをし、素敵な公園で天気の良い時間を楽しんでいるのを見ることで元気になりました。

私たちの寮の素晴らしい管理人中島さん、寮をピカピカにしてくれる疲れ知らずの筒井さん、いつも親切な寮のチューター早紀とドヨン、そして私の素敵な友人達の Dan、Aliwen、Arturo、Sareena、Kristyna、Angus、ありがとう。皆さんは本当に素晴らしいです。これからの道がどこであっても、たくさんの愛をこめて。

そして、この地域を素敵な空間にしてくれている、親愛なるご近所の皆さん、ありがとうございます。

(訳: 東京藝術大学国際企画課)

東京藝術大学の歴史は、明治維新の文藝復興の精神に由来し、その精神を継承して、戦後、戦前、戦中、戦後を通じて、日本の文化の発展に貢献してきました。

この大学は、戦後の復興期に、戦前の文藝復興の精神を継承して、戦後、戦前、戦中、戦後を通じて、日本の文化の発展に貢献してきました。

この大学は、戦後の復興期に、戦前の文藝復興の精神を継承して、戦後、戦前、戦中、戦後を通じて、日本の文化の発展に貢献してきました。

この大学は、戦後の復興期に、戦前の文藝復興の精神を継承して、戦後、戦前、戦中、戦後を通じて、日本の文化の発展に貢献してきました。

(東京藝術大学 校章)



東京藝術大学